



ブルーノ・カニーノ ピアノ・リサイタル

BRUNO CANINO PIANO RECITAL

Program

- ベートーヴェン：ピアノソナタ第14番「月光」Op. 27-2
- ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第5番「春」Op. 24
- ドビュッシー：子供の領分
- ラヴェル：ツィガーマ
- ドビュッシー：ヴァイオリンソナタ

※都合により曲目を変更する場合がございます。予めご了承ください。



SANDORINE CANTOREGGI, Violin

【ゲスト】

サンドリーネ・カントレッジ
(ヴァイオリン)

2018.

5/26 土

14:00開演(13:30開場)

藤沢リラホール

〒251-0025 藤沢市鵜沼石上1-1-15-5F
(小田急・JR東海道線藤沢駅南口徒歩3分)



Ticket (全席自由) ※就学前のお子様のお入場はご遠慮ください。

一般 ¥5,000 / ペア券(二枚組) ¥9,000

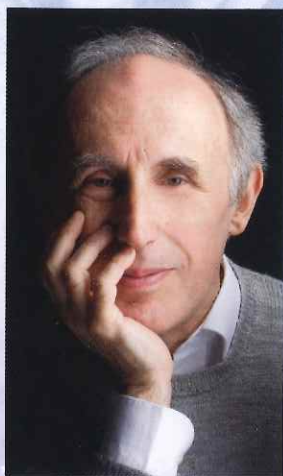
5/12 福間洗太郎 リサイタルとのシリーズ券 ¥8,000

●前売り・お問合せ 藤沢リラ6階事務局 Tel.0466-22-2721 info@fujisawalyra.com
メールでのチケットご注文はホームページ「予約フォーム」にて承ります。

藤沢リラホール 検索 又は <http://www.fujisawalyra.com>

BRUNO CANINO

ムーティ、アバド、シャイーなど数々の名指揮者と名演を生み出したイタリアの巨匠がお贈りするピアノ名曲コンサート。フランスの逸材サンドリーネ・カントレッジ(Vn)が華を添えます。



ブルーノ・カニーノ (ピアノ)

Bruno Canino, piano

1935年ナポリ生まれ。ナポリ音楽院にてヴィンチェンツォ・ヴィターレに師事。続いてミラノ・ヴェルディ音楽院にてエンツォ・カラッチェ、ブルーノ・ベッティネリのもと、ピアノと作曲を学ぶ。1956年、58年ブゾーニ国際コンクール入賞、1960年ダルムシュタット国際コンクール入賞。ヨーロッパ、アメリカ、カナダ、日本、中国、マレーシア、ロシア、ラテンアメリカ、ニュージーランド、オーストラリアなど世界各地でソリスト、室内楽奏者として活躍。アントニオ・パリスタとのピアノデュオは50年にわたり、またマリアーナ・シルバ(ヴァイオリン)、ロッコ・フィリッピ(チェロ)とのミラノ三重奏団も長年にわたる活動を続けている。

サルヴァトーレ・アッカルド、ウート・ウーギ、リン・ハレル、イツァーク・パールマン、ヴィクトリア・ムローヴァ、ピエール・アモイヤルなどと共演多数。また共演した指揮者、オーケストラは、ブルーノ・マデルナ、リカルド・ムーティ、クラウディオ・アバド、リカルド・シャイー、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、ルチアーノ・ベリオ、ピエール・ブレーズなど、ニューヨーク・フィルハーモニック、フィラデルフィア管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ローマ聖チェチーリア音楽院管弦楽団、フランス国立管弦楽団、コンセルトヘボウ管弦楽団など、世界有数のオーケストラと共演多数。ボルツァーノ、サンタンデル、メーランド、グラーツ、ウィーン、チューリッヒ、ライプツィヒ、モスクワ、など多くの国際コンクールで審査員を務める。

現代音楽にも造詣が深く、ピエール・ブレーズ、ルチアーノ・ベリオ、カール=ハインツ・シュトックハウゼン、ジェルジュ・リゲティ、ブルーノ・マデルナ、ルイジ・ノーノ、シルヴァーノ・ブソッチらと共に多くのプロジェクトを展開。

レコーディングはJ.S.バッハのゴルトベルク変奏曲、アルフレード・カゼッラのピアノ作品集(Stradivarius)など多数。現在はドビュッシーの全ピアノ作品集に取り組んでいる。1997年『Vademacum per il pianista da camera(室内楽ピアニストのための手引き)』を出版するなど執筆活動も行う。

ジェノヴァ・ユースオーケストラ、Campus Internazionale di Musica(ラティーナ)の芸術監督、1999年から2001年までヴェネツィア・ヴィエンナーレ音楽部門の監督を務める。ミラノ音楽院で24年間ピアノ科教授を務め、ベルン音楽大学では11年間にわたりピアノと現代音楽のマスタークラスを開講。現在は、マドリードのFundacion Instituto de musica de Camaraにて室内楽の教鞭をとる。

サンドリーネ・カントレッジ (ヴァイオリン)

Sandorine Cantoreggi, violin

サンドリーネの演奏する"Chant du Roi (King's Song)"は、イタリア由来の苗字"Canto-Reggi"と、同意語であることを連想させる。彼女はオーケストラ、リサイタルのソリスト、また室内楽奏者として活動しているヴァイオリニストである。

パリ国立高等音楽院を首席で卒業、その後マンハイム=ハイデルベルク音楽大学でもディプロマを得たほか、クイーン・エリザベス・ミュージック・チャペル(ベルギー)で、ピエール・アモイヤル、レジス・バスキエ、ローマン・ノーデル、カルロ・ファン・ネステラからそれぞれ特別なディプロマを取得した。またジャン=ジャック・カントロフ、ヴィクトル・リーパーマン、ラリッサ・コロスらにも貴重なアドヴァイスを受けた。

サンドリーネの音楽スタイルは、厳格で熟達した妙技の中に、風格と優雅さも醸し出しており、その音はきめ細やかで力強く、個性溢れる音色を作り出している。ロシアのヴァイオリン学校でトレーニングを積むように、フランス=ベルギーの音楽学校で鍛えられたことは、彼女の音楽の礎となっている。彼女はバロックから現代の作曲家を広く吟味したものをレパートリーとして演奏している。

サンドリーネはフランス、ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ、ドイツ、スイス、イタリア、スペイン、ポルトガル、チェコ、ルーマニア、ハンガリーなどを中心とした著名な音楽祭に招かれているほか、ヨーロッパのコンサートホール、サル・ガヴォー、オルセー美術館(パリ)、ゲバンドハウス(ライプツィヒ)、ルドルフスム(プラハ)、グランド・スタジオ・フラセー(ブリュッセル)、フィルハーモニー(ルクセンブルグ)などで、OCL、ソリストス・ヨーロピアンズ・ルクセンブルグ、ラトヴィア・フィルハーモニック・チェンバー・オーケストラ、ソリスト・デ・モスクワ、ヴィルトゥオーゼス・デ・モスクワなどと共演を重ねている。

ソリストとしては、ユーディ・メニューイン、ヴラディミール・スピバコフ、ユーリ・バシュメット、ジョルジュ・オクトール、イアン・ステューレン、ステファン・ドゥヌーブ、ピエール・カオ、マーク・ストリンガー、ジャン=ピエール・ファベール、ドリアン・ウィルソンなどの指揮者やアーティストなどと共演している。

室内楽では、ブルーノ・カニーノ、ガブリエル・タッキーノ、ダニエル・ブルメンタール、ダイナ・プロトポプスク、コニー・シューなどのピアニストが彼女のパートナーであり、チェロのグスタフ・リヴィニウス、フランシス・グローベン、ヴァレリー・アイマルド、ヴァイオリンではユーリ・バシュメット、リリア・ホフマン、テレーゼ=マリー・グリッセン、ダニエラ・ヘンニコットなどが共演者である。彼女の多くのコンサートは、ヨーロッパの放送局(France-Musique, France Culture, WDRザールブリュッケン, RAI, ラジオ100.7 Musique 3...など)でライブ録音されており、タートルレコード、パヴァーヌ、リジア、カリディスクなどがある。ロカテリ、オンスロウ、レスピーギ、イザイ、ラロ、ラヴェル、エネスコ、ロパルツの音楽は、彼女の力強い音楽で再現されている。

2009年には、ルクセンブルグ大公殿下より、科学と芸術の分野を高めた者に贈られる「ルクセンブルグ公国の勲章」とナイトの称号を授与された。彼女の芸術活動のために、ルクセンブルグ国際銀行よりG.B.ガダニーニ制作のヴァイオリンを、特別に与えられた。

